

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ビックママ スーパーキッズ 放課後等デイサービス			
○保護者評価実施期間	2025年12月18日		～	2026年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2025年12月16日		～	2025年12月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)を作成しています。	・日々のこどもたちの様子を連絡帳や送迎時に保護者に伝えたり、モニタリング時や来所時に情報共有を行うことで、職員と保護者との信頼関係を深めています。また、SNSを通して、その日の様子を写真や動画で発信しています。	・事業所のオープンデイ、お直し工場親子見学会を設けるなどして、こどもたちの様子や事業所の様子を見てもらえるように計画を進めています。
2	活動プログラムについて固定化しないように工夫しています。	・株式会社ビック・ママが運営している民間学童施設の機能を生かし、運動療育を含めた諸活動を平日週2回の頻度で実践しています。 ・職員間で相互に教材研究を行い、創作活動、簡単な実験、ソーシャルスキルトレーニング（SST）など、多様な活動プログラムを実施できるよう努めています。 ・他事業所交流、隣接保育園交流、高校生との交流クリスマスコンサート等、地域交流活動プログラムに盛り込んでいます。	・株式会社ビック・ママが運営する民間学童施設を土曜日に開放し、他事業所のこどもたちとの交流の場として機能させることを検討中です。また、他事業所の職員間の交流の場としても活用することを併せて検討しています。 ・職員間で定期的に教材研究を行い、最新の教材や活動アイディアを取り入れます。職員向けに定期的な研修を実施し、創作活動や実験、SSTの指導方法を学びます。 ・地域交流の継続をはかります。
3	こどもの利用満足度の数値が高水準となっています。	・保護者様との信頼関係構築は療育の基盤と考えております。その上で、ニーズを把握し、こども一人ひとりの個性に合った活動プログラムの充実を図っております。	・こどもの興味や個性に合わせた新しい活動プログラムを導入します。また、保護者が参加できるオープンデイ開催し、保護者とこどもが一緒に参加できる活動を企画し、家庭との連携を強化します。 ・保護者・学校・併用事業所間でのこまめな情報共有と、利用者の心身の変化について、常に職員間で共有をはかります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種情報の発信力について。	・事業所として、ホームページ、SNSの活用、保護者向け通信の発行など情報発信が不定期にならないように取り組んでいます。受け手からのフィードバックがないと、情報発信の効果を測定しにくく、改善点が見えにくいことが課題です。	・Instagramで定期的に活動の様子を継続配信することで、利用の様子、雰囲気、療育内容の把握がしやすいと考えられます。動画配信を増やすことで、より伝わりやすいと考えています。保護者との会話の中で、配信の様子を伝える事でコミュニケーションツールの一貫とする事と、感想を聞くことで次回改善点につなげたいと考えています。
2	地域連携を含む外部との連携について。	・地域の児童発達支援センター、児童館、他事業所、教育機関との連携については適切に行われています。しかしながら、地域商店街とのつながりについては、不十分と考えています。また事業所が市街地にあるという立地条件を十分に生かし切れていない状況です。	・地域商店街主催の防災訓練などに参加し、こどもたちの社会参加を促進します。また、「顔の見える関係」の構築と連携のために、時間を確保することに努めたいと思います。 ・公共交通機関の活用を通して自立に向けた活動を取り入れていきたいと考えています。
3	非常時の対応に関する認知度が低いことについて。	・事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルなどを策定し、ホームページにも掲載していますが、正しく理解されていない部分が多いと考えています。	・非常時の対応について、SNSでの定期的な情報共有、教室掲示など様々な情報発信手段を用いて、情報伝達に努めたいと思います。 ・職員研修を通して、利用者との訓練回数を増やすことで、非常時対応と共に実践訓練の保護者配信を通して認知度を上げたいと考えています。